

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370554

研究課題名(和文) 日英語圏における「家族」のカテゴリー化と、関連する社会問題について

研究課題名(英文) Categorization of "Family" in Cultures of English and Japanese, and Its Meaning in Societies

研究代表者

山田 仁子 (Yamada, Hitoko)

徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・准教授

研究者番号：00200733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：英語圏と日本語圏という異なる社会における「家族」の捉え方について、言語の面から明らかにした。具体的には「家族」に関する語のカテゴリー化の過程を分析した。その結果、両言語共にカテゴリー成員として理想とされる性質と、成員として最低限満たさねばならないとされる性質の2種類が働くことで語のカテゴリー形成が起きていることが確認されたが、その性質の内容は英語圏の方が日本語圏よりも選択肢が多いことも明らかになった。英語圏よりも日本語圏の方が「家族」は画一的に捉えられていると判断された。

研究成果の概要(英文)：This project has clarified the ways to construct the concepts concerning "family" in different cultures of English-speaking and Japanese-speaking societies. The linguistic data collected from the corpora, WordBanksOnline, BNC (The British National Corpus) and BCCWJ (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) has indicated that these two languages, English and Japanese, use the same procedure of categorization for family-related words, in which two kinds of features work to form categories, the ideal feature of the category members, and the necessary feature to be a member of the category. However, the data also has shown that Japanese allows fewer characteristics for these features. This fact indicates that Japanese society is more rigid and stereotypical about families than English-speaking society.

研究分野：英語学

キーワード：カテゴリー化 家族 社会 英語圏 日本語圏

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 日本語と英語の色彩語彙のカテゴリー化についての研究によって、色彩語彙のカテゴリー化においては2種類の力が働くことが明らかになった。カテゴリーの中心に結び付ける力と、カテゴリーの境界より内側へと分け入れる力である。

人は色を現実社会で認識する際、何らかの色彩語カテゴリーのプロトタイプに対する類似性を発見すると、目の前の色をその色彩語カテゴリーの中心へと結び付け、その色彩語カテゴリーに組み込む。また目の前の物がその物の平均的な基準と期待される色よりも、その色彩語カテゴリー寄りの色味を帯びていると判断すると、目の前の物の色をその色彩語カテゴリーの境界よりも内側へと組み込む。

こうした2種類の力がカテゴリー化において働く時、カテゴリーのプロトタイプとして認められる典型的な色と、カテゴリー成員として認められる境界線を成す色とが大きな重要性を持つ。

(2) 色彩語の研究により明らかになったカテゴリー化における2種類の力が、他の一般的な語彙のカテゴリー化においても働くとするならば、そのカテゴリーの典型と見なされるための性質と、カテゴリー成員として認められるための最低限の性質とが明らかになると予想された。

(3) 現代社会において、人は「家族」に理想とする性質として何を求めているのか、また「家族」と認めるのに最低限の条件として何を心の中で設定しているのか、「家族」やこれに関係する「母親」や「父親」と言った家族に関する語彙について、そのカテゴリー化のプロセスを、またカテゴリー化において働く力と性質を、その語彙の用いられ方を調べることで明らかになることが期待された。

(4) 幸い、英語にも日本語にも現在は大規模コーパスが存在し、ここから「家族」に関する語がいかに用いられ、人の心の中でいかにカテゴリー化されているのかを観察することができる。

(5) 本研究は、現代の日本語圏と英語圏において、「家族」がいかに捉えられているのか、大規模コーパスから大量に「家族」に関する語彙の用例を文脈と共に収集し、言語使用者の心の中で、「家族」がいかにカテゴリー化されているのかを明らかにするものと設定した。

## 2. 研究の目的

(1) 人が自分を取り巻く世界をいかに「分類」しながら生きているのかという、人類にとって根本的なレベルでの謎を解くことを目的とした。

(2) 本研究では、(1)の具体的事例として、「家族」をはじめとする「他者」を、人がいかに「分類」しているのか、つまり「カテゴリー化」しているのかを、英語圏と日本語圏とで比較しながら明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 英語圏で“mother” “father” “family”など「家族」に関する語が用いられる文脈を収集かつ分析することにより、家族における人間関係が英語圏でいかにカテゴリー化されているのかを明らかにした。特に取り上げた表現形式は、英語の場合には、“true” や “real” が共に用いられるものであり、また日本語の場合には、「ほんとうの」が共に用いられるものとした。資料の収集には、BNC(British National Corpus), COCA (Corpus of Contemporary American English), WordBanksOnline などの大規模コーパスを中心に使用した。

(2) 日本語圏で「母親」「父親」「家族」など「家族」に関する語が用いられる文脈を収集かつ分析することにより、家族における人間関係が日本語圏でいかにカテゴリー化されているのかを明らかにした。資料の収集には、国立国語研究所の大規模コーパス『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』を中心に使用した。

## 4. 研究成果

(1) 日本語と英語の大規模コーパスから「家族」に関する語彙が用いられている用例をその文脈と共に収集し分析した結果、色彩語彙の場合と同様のカテゴリー化のプロセスが観察された。つまり、カテゴリーの中心であるプロトタイプへと結び付けることでカテゴリーにその成員を組み込む力と、カテゴリーの境界より内側へと入れ込む力が働いて、カテゴリー化が起きているのである。また、プロトタイプとして認められるための性質と、カテゴリーの境界を成すカテゴリー成員として最低限求められる性質も抽出することができた。

(2) 日本語と英語の「家族」に関する語彙のカテゴリー化においては、そのプロセスは共通するものであり、2種類の力が働くものではあることが確認されたが、その2種類の力を引き起こす鍵となるカテゴリー成員の性質については、異なるものであることが明らかになった。

(3) 英語圏における「家族」に関する語彙のカテゴリー化においては、「血縁」だけではなく「家族構成」や「結束」などもほぼ同程度の重要性を持つ性質であるのに対して、日本語圏における「家族」に関する語彙のカテ

ゴリー化においては、「血縁」という性質が大きな重要性を持つ性質となっている。英語圏における「家族」が柔軟性を備えるものとして捉えられているのに対して、日本語圏における「家族」は柔軟性に欠ける画一的なものとして捉えられている傾向が明らかである。

(4) 「父親」カテゴリーについては、更に大きな相違が日英語圏の間に見られた。どちらの言語圏においても「血縁」という性質がカテゴリーの境界を定めることでカテゴリーが形成されていると判断される場合が多いのだが、英語圏においては、「愛情」や「尊敬」という性質もプロトタイプが備える理想的な性質として捉えられている例も相当数見られた。

(5) 全体的に日本語圏における「家族」に関する語のカテゴリーは、「血縁」という性質をカテゴリーの境界とする場合が多いのだが、「母親」に限っては、プロトタイプが備える理想的な性質を中心にカテゴリー形成が起きていると判断される例が多く見られた。「母親」に対して日本語圏の文化では、他の家族構成員には求めない理想的な性質を強く求める傾向が、明らかになった。日本語文化圏における「母親」の位置の特殊性は注目に値する。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 山田仁子, 「イギリス英語圏における家族像-trueとrealで探るFAMILYカテゴリーの成立条件」-, 徳島大学総合科学部言語文化研究 22巻, pp.127-147, 2014年12月27日 査読無

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/repository/metadata/106389>

2. 山田仁子, 「FATHERカテゴリーの形成過程に見る英語圏における父親像」ハイペリオン [徳島大学英語英文学会] 60巻, pp.3-12, 2014年3月 査読有

3. 山田仁子, 「「家族」に関する日本語語彙のカテゴリー化」徳島大学総合科学部言語文化研究, 21巻, pp.81-106, 2013年12月 査読無

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/repository/metadata/106218>

〔学会発表〕(計5件)

1. Hitoko Yamada, “Japanese Kinship Terms for Strangers,” 14th International Pragmatics Conference, Antwerp, Belgium, 26-31 July 2015

2. Hitoko Yamada, “Necessary Conditions of FAMILY Category in Contexts,” Language, Cognition and Society (AFLiCo 6), Grenoble, France, 28 May 2015

3. 山田仁子, 「本当の父親」って?:英語と日本語における「父親」カテゴリー- “Real” “True” 『本当の』を手がかりに-, 徳島大学英語英文学会 平成25年度 講演会 2014年3月9日 徳島大学, 徳島県徳島市

4. 山田仁子, 英語における「家族」カテゴリー形成:true, real をてがかりに, 日本語用論学会 第16回大会, 2013年12月8日 慶應義塾大学, 東京都港区

5. Hitoko Yamada, “Ad hoc Categories in Contexts: Dynamic Categorization in Japanese and English,” 13th International Pragmatics Conference, New Delhi, India, 12 September, 2013

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1)研究代表者

山田 仁子 (YAMADA, Hitoko)  
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・ア  
ンド・サイエンス研究部・准教授

研究者番号：00200733

(2)研究分担者

無し

(3)連携研究者

無し